

橋本正隆氏文書 (2) 概要

- 1: 文書群番号 114018
- 2: 文書群名 橋本正隆氏文書 (2)
- 3: 出所 橋本正隆家
- 4: 家業・役職等 庄屋
- 5: 地名 摂津国川辺郡椎堂村／兵庫県川辺郡椎堂村／川辺郡園田村椎堂／尼崎市椎堂／尼崎市椎堂1丁目ほか
- 6: 行政区分 幕府領・大坂城代領／幕府領／武蔵国忍藩阿部氏(忠吉系)領／幕府領／兵庫県第12区／下食満組戸長役場／園田村／尼崎市
- 7: 歴史
椎堂村は市域北東部、猪名川と藻川の間に位置する。史料上の初見は文禄3年(1594)『椎堂村検地帳』(『尼崎市史』第5巻)。
近世初期には村の大部が幕府領または大坂城代領、極小部が慶長3年(1598)旗本大島氏(光義系)の知行所、寛永14年(1637)幕府領。元禄5年(1692)全村幕府領となり、1694年武蔵国忍藩阿部氏(忠吉系)の領地、文政6年(1823)幕府領となった。村高は「慶長十年摂津国絵図」に359.065石、(ただし村名は判読不能)、「元禄郷帳」に373.183石、「天保郷帳」に377.8535石とある。また寛延4年(1751)「椎堂村差出し帳」(『尼崎市史』第5巻)には百姓本人37人・水呑百姓5人・ほか6人、安政5年(1858)「椎堂村村方模様書上げ帳」(『尼崎市史』第6巻)には家数41軒、人数207人とある。三ツ又井組に属した。氏神は十九〔とく〕神社(近世には十九社明神)、寺院は浄土真宗本願寺派吉祥寺。
明治22年(1889)以降は園田村、昭和22年(1947)以降は尼崎市の大字となった。1987年の住居表示により椎堂となったほか、一部が東園田町となった。
橋本家の屋号は「材木屋」。近世中期には庄屋、後期には伍長(五人組長)を務めていた。当主は四郎兵衛を襲名。
- 8: 伝来 平成26年6月、史料館が借用。平成28年10月整理を終了し、寄贈をうけた。
- 9: 史料入手先 橋本正隆家
- 10: 点数 220点(目録件数192件、目録外物品15点)
- 11: 年代 享保7年(1722)～昭和26年(1951)
- 12: 構造と内容 主に(1)村政関係(近世・近代)、(2)質屋・材木屋・金融など家業関係、(3)西本願寺関係など宗教関係からなっている。
橋本家が材木屋を営んでいた事は知られていたが、本文書群より、古くは質屋も営んでいた事が判明した。近代に入ってから、地主として、土地経営を行っていた事がわかる。都市近郊農村の金融経営をうかがえる史料である。
宗教関係では、摂津十三日講の活動の一端が分かる史料などがあり、貴重である。
- 13: 関連史料 橋本正隆氏文書、椎堂部落有文書、門田隆夫氏文書(1)(2)
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 城戸八千代

この文書群概要について

- ・この概要は、従来の文書群概要に加え、記録史料記述の国際標準基準（ISAD(G)）に準拠して作成した概要です。
- ・ISAD(G)内の記述のうち、分かりやすくするために、「シリーズ記述」を「分類についての説明」としています。
- ・ISAD(G)は、General International Standard Archival Description の略です。
- ・この記述は、文書群の内容をより分かりやすくするために作成されたものです。
- ・「フォンド記述」については、従来の文書群概要で代替しています

（参考『記録史料記述の国際標準』（2001年、北海道大学図書刊行会））

分類についての説明

	タイトル	数量		記述レベル/資料内容
1	村政(近世)	19	安永8～嘉永3	近世期の村の運営に関する内容。刑事・訴訟事務ほか税務などが含まれている。形態は状が多い。
2	村政(近代)	24	昭和12～昭和26	昭和戦前期から戦後期にかけての村の自治運営関係の帳簿類。配給関係なども含まれる。形態は横帳である
3	旱魃	15	大正11～昭和14	旱魃の折に使用された発動機や唧筒(ポンプ)、人足の帳簿類。大正13年、昭和2年、同9年、同14年に旱魃に遭ったことがえる。
4	土地	26	元文元～文久元	田畑、建家の質物証文・売渡証文など
5	金融	18	安永2～明治元	金子・銀子・米等の借用証文。
6	質屋	3	天明3、4	「質屋仲間定法」(一部)、と水車の預り状などからなる。
7	材木屋	4	文政13頃	材木屋渡世出入りの関係史料などからなる。材木屋の近世史料は少ないため、貴重である。
8	奉公	11	文化元～安政4	奉公人請け状など。
9	家	5	近世、近代	書画や金銭覚など
10	小作	2	天保13、嘉永4	小作証文。同じ小作地が惣左衛門から四郎兵衛に小作人が移り変わっていることがわかる。

	タイトル	数量		記述レベル/資料内容
11	西本願寺関係	12	近世～明治41	寄進、寸志差し出し関係。護持会関係。摂津十三日講関係。特に「摂州十三日講寸志奉納絵巻」(請求番号123)は文政・天保期の大根屋小右衛門の西本願寺改革の頃のものと思われる。 摂津十三日講については以下の「aredia」を参照してください。 http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/apedia/index.php?key=%E6%91%82%E6%B4%A5%E5%8D%81%E4%B8%89%E6%97%A5%E8%AC%9B
12	吉祥寺関係	3	寛政2～嘉永3	幕末期の宗旨送り状。善念寺(富田)との訴訟関係史料。
13	伊勢講	4	明治4ごろ	伊勢参宮の入用帳、見舞帳などである。
14	教典等	14	近世など	「一枚起請文」(法然が書いた文章)の筆写や木刷版、法話、経文、仏像刷物などからなる。
15	法事	3	享保7～延享元	法名の書付である。法事の際などに使われたものと思われる。
16	領収書	23	明治34頃か	領収書や覚などである。家のものか、村の寄合などの際のものかは判別出来ない。
17	土地経営	1	明治13	不作のため、小作料を減免する旨を記した地主の約定書である。
18	歴史	1	文化10	「大坂三郷町中御取立軍伝」 これは『大阪市史』第5巻所収の「大坂三郷町中御取立承伝記」に内容が似通っている。原文は安永9年であり、文化10年に筆写したものである。
19	相撲	1	近代	食満村にて行われた相撲興行のお知らせである。

	タイトル	数量	記述レベル/資料内容
20	断簡	6	寛政7ほか -
21	その他	10	近世～大正 読本(帳外れ)、広告、包紙など。